

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：かしわ台あおぞら保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：井上 友美	定員（利用人数）： 60名
所在地：海老名市柏ヶ谷555-6 かしわ台スクエア内	
TEL：046-236-0522	ホームページ： www.aozora-k.jp/aozora-hoikuen
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2007年7月9日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人あゆみ会	
職員数	常勤職員： 15名 非常勤職員 12名
専門職員	（専門職の名称）
	保育士 16名
	栄養士 1名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等） 保育室6 多目的室（一時預かり室）

③理念・基本方針

<p><保育理念></p> <p>子ども一人ひとりを大切に 保護者からも信頼され 地域に愛される保育園を目指す</p> <p><保育方針></p> <p>豊かな人間性を持った子どもを育成する 心と身体の自立を促す保育</p> <p><保育目標></p> <p>心身ともに豊かな子ども たくましい身体づくり 思いやりのある子ども 意欲をもつ子ども 自分で考えて行動できる子ども</p>

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>○保育目標に掲げる「たくましい身体づくり」の一環として、テニスのコーチを園に招き、子どもたちがテニスを楽しんでいる。テニススクールに通っている子どももいる。また、年中児からはクラスごとに、レオキッズによる英語教育を行う他、年長児は茶道教室に参加している。年度末には子どもたちが浴衣を着て、保護者を招待し、お点前を披露している。その他リトミックなども取り入れ、子どもたちがさまざまな活動を体験できるよう取り組んでいる。</p> <p>○食育に力を入れた保育を行っており、園内の畑でナスやキュウリ、ミニトマトなどを</p>
--

栽培している。子どもたちは、水やりや草むしりを行い、生長を楽しみにしている。食材への興味を育むため、子どもたちが栄養素の3色のボードに、その日の献立の内容を振り分けて貼り、ボードを玄関に掲示している。また、地域の方の協力を得て、園外の畑でサツマイモを栽培して、毎年、子どもたちがサツマイモ掘りや焼き芋を楽しんでいる。子どもたちは、サンマの骨取りにも挑戦している。給食に関する保護者アンケートでも、子どもが楽しく学びながら食べてきてくれるという感想が多くあがっている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月1日（契約日）～ 2021年11月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2015年度）

⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

- かしわ台あおぞら保育園は定員60名、各クラス10名前後の少人数の園で、子どもたち一人ひとりに向き合い、アットホームな雰囲気の中で子どもたちの声を聴いている。園舎は平屋建てで、園庭を囲むようにして各クラスの保育室がある。2、3歳児の保育室の仕切りを外して、園内行事の会場に使用している。
- 園庭が広くないため、積極的に散歩に出かけている。園周辺は緑に恵まれ、天気の良い日は子どもたちが近くの公園に散歩に出かけている。四季折々の自然とふれあうことで、子どもたちは季節感や開放感を味わっている。
- 保育の特徴として、0、1、2歳児は「かわいがり保育」、3、4、5歳児は「寄り添い保育」を掲げている。養護と教育について、年齢別の目標を立てている。0歳児の保育では、離乳食は個別に対応し、毎月、離乳食の進み具合や新しい食材の使用などについて、話し合いを行っている。また、SIDS（乳幼児突然死症候群）対策として、うつぶせ寝を避け、5分おきに呼吸のチェックを行い、記録している。「かわいがり保育」を目標にして、抱っこをし、十分に愛着関係ができるよう話しかけながら保育している。
- 1、2歳児の保育では、SIDS対策として、うつぶせ寝を避け、10分おきに呼吸をチェックして記録に残している。保育士との会話を楽しみながら、基本的な生活習慣が身に付くよう働きかけている。また、感覚遊びとして、寒天や小麦粉、スライムなどを手に取り、こねて遊んで楽しんでいる。ブロックも、柔らかいものや固い素材のものを準備している。
- 3歳以上児の保育では、子ども一人ひとりの発達の違いも大きいことから、どうしようか迷っている子どもに対して、どこまで手を貸していいのか、どう関わっていくかなど、月1回開催する幼児カリキュラム会議で話し合い、保育士が共通した関わりが持てるようにしている。友だちと関わる楽しさを体感してほしいことから、相手の気持ちを理解できるよう保育している。子ども同士で助け合ったり、協力し合うなど、子ども自身が考えて行動できる機会を多く作っている。
- 非常勤の職員を含めた全職員が、年3回、「自己評価」を行っている。「自己評価」表に、今期の個人目標を記載し、3月には反省・評価を記載して、年4回の園長との個別面接で内容を確認している。また、年2回、「保育所の保育のチェックリスト」や「食育・食事の提供等に関するチェックリスト」にて、日々の保育内容を確認し、質の向上に努めている。
- 第三者評価の受審は、今回が2回目になる。第三者評価を継続して受審することで、提供する保育の質の向上に努めている。第三者評価の自己評価表の作成にあたっては、

園で頑張っているところ、これから努力していかなければいけないところが判り、また、今後の課題にも気づくことができたとのことであった。

◇独自項目への取り組み

○事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムを確認する「発展的評価項目」に取り組んでいる。「縦割り保育と子どもの学び」をテーマにして、取り組みの過程をPDCA（計画、実行、評価、改訂）に分け、実践を振り返っている。月2回、3～5歳児がグループを作り、縦割り保育を行い、異年齢との交流の中での学びを支援している。コロナ禍で取り組みは中断していたが、今後も継続して、縦割り保育を実施していくこととしている。

○内容評価項目について、事業所が具体的に次への取り組みを検討する「課題抽出項目」では、＜A5：子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育の展開＞と＜A20：保育実践の改善や専門性の向上＞をあげ、課題を抽出している。縦割り保育を実践する中で、子どもの主体性の尊重について、職員全体で関わっていくことを決めている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回は第三者評価を受けさせて頂きありがとうございました。評価結果を通しマニュアルの見直し、追記、修正等や、保育士、保育園の質を上げるための取り組み等もっと頑張らなければいけない部分が見えてくるのが分かりました。また発展的評価項目ではPDCAを意識しながら保育する事の大切さを知り、今後も続けてゆきたいと思いました。アンケートでは、コロナ禍という事もあります直してほしい（改善しなければいけない所）ことは前向きにとり組んでいこうと思います。これからも子どもたちのすこやかな成長の手助けが出来るよう励みたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり